

# きらり 通信

平成25年12月19日(木)発行 第15号

福島県立須賀川養護学校

tel: 0248-76-2511 fax: 0248-72-4729

ホームページ <http://www.sukagawa-sh.fks.ed.jp>



## “明日からの実践に役立つ” 講演会や研修会について

教頭 江尻 修

10月に、郡山女子大学短期大学部幼児教育学科准教授の小林徹先生をお招きして、「ひととひとをつなぐ授業の充実をめざして」というテーマで講演会を開催しました。小林先生は25年間、東京都で中学校の特別支援学級の担任等として、様々な障がいのある生徒たちとかかわってこられた経験があり、講演会では豊かな教育実践の一端をご紹介いただきました。特に、「マイ・イソップ～自分の体験から考えたオリジナルのイソップ物語を書こう」や「自分の取扱説明書を作る」の実践からは、“授業のヒントは生徒の中にある” “自分の思いやつらさを人にわかってもらえることができる、ということを実感してもらおう”などの具体的なことをお教えいただきました。参加者は、須賀川養護学校と地域の小学校・高等学校の職員で、担当している児童生徒の生活年齢や実態等は異なりますが、参加者一人一人が多くの気づきや発見をすることができたと思います。

また、11月には、中京大学現代社会学部教授・浜松医科大学「子どものこころの発達研究センター」客員教授の辻井正次先生をお招きして、「児童生徒のストレスを軽減するためのプログラム～高次の自己理解を中心として～」というテーマで研修会を開催しました。発達障がいのある生徒の理解の仕方、指導・支援やライフプランニングのあり方について具体的にお話をいただきました。

須賀川養護では、このような講演会や研修会を年数回実施しており、地域の学校や関係機関にも情報を提供し、参加を呼び掛けております。主に本校の地域支援センターきらりがその役割を担っておりますので、お気軽にお尋ねください。きっと、明日からの教育実践に役立つ講演会等の情報が得られることと思います。



▲11月の研修会の様子



## 「好きなこと」で生活を豊かに

～「児童生徒の心のケアに関する研修会」から～



「お子さんの好きなことは何ですか？」と聞かれた時にすぐに思い浮かばない方や、「好きみたいけど上手にできないし…」 「もっと別のことならいいのに…」 と思っている方も多いのではないのでしょうか。今回は、「児童生徒の心のケアに関する研修会」の講師としてお招きした辻井正次先生から伺った「好きなこと」の「効能」を、いくつかご紹介します。

☆「好きなこと」があると、他の人と気持ちや時間を共有することができる。

☆「好きなこと」を思い浮かべることが、不安な気持ちに立ち向かう力になる。

☆「好きなこと」を大切にすることが、自分を守り、大切にすることにつながる。



「好きなこと」を思い浮かべることで、苦手なことや嫌な時間もやり過ごすことができた経験を、皆さんもきっとお持ちでしょう。「好きなこと」が同じ仲間と、楽しい時間を過ごした経験も。上手くできなくても、ささやかなことでも、ちょっと変わったことでも、「好きなこと」は生活を豊かにしてくれます。子どもたちの、そして私たちの「好きなこと」を大切にしていきたいですね。

(文責 星)



## やりたいことを実行につなげる工夫



### ～整理箱や棚の準備とラベル表示～

「〇〇がない。」と必要なものを慌てて探すことはありませんか。私たち大人は、なんとかイライラする気持ちを抑えながら、次の行動をとりますが、成長過程にある子どもたちは、やろうと思った遊びや学習ができず、あきらめてしまうかもしれません。

そこで、子どもたちが、いつも使う玩具や学習道具などは、決まったところから取り出し、片づけることができるような整理箱や棚などを準備したり、子どもたちがわかる絵や写真、文字などでラベル表示したりすることをお勧めします。やりたいと思ったとき、必要なものを確実に取り出して実行できるようになるので、達成感につながります。道具の片付けも容易になるので、きちんと片づける習慣も身につきます。ものを大切に作る気持ちも生まれ、周囲から可愛がられる子どもに育っていくように思います。

これから年末年始を迎えます。忙しい時期ですが、親子で少し工夫してみてはいかがでしょうか。

(文責 齋藤)



▲国語や数学の表示をみて、好きなプリントを取って学習します。



▲作業学習の道具を棚に整理。色や文字が手がかりです。



▲お弁当箱を洗うための道具が使いやすく整理されています。



▲図書室の本です。思わず手に取ってみたいくなります。

## ☆きらりちゃん日記☆

1 見方を 変えれば... いろいろないろいろな...  
2 気が散りやすい... 興味がある...  
3 同じことを 何度も言っている... 前ね... あね...  
4 おお! おお! おお! 節約上手... あなたの妻は...  
「困った行動か」「問題か」とずっと考えているとよよい対応が浮かばないことがあります。見方を変えて肯定的にとらえるとアプローチ方法が見つかるかもしれません。(大竹)

## 本の紹介

今回は「発達障がい」について改めて考えるきっかけになりそうな2冊を紹介します。

1冊目は、河野俊一著の『誤解だらけの「発達障害」』です。著者が大切にしているのは、「しなくてはならないこと」と「してはいけないこと」をそのつど伝え、適切な言葉や行動に導くこと。その繰り返しの中で「教わる力」を身に付けさせること。

僕は「着ない」と言ったけど、ほんとは着るようになるまで言い続けてほしかったんだー感覚過敏のため冬でも半そで半ズボンで過ごした当事者の言葉です。

2冊目は、精神科医である岡田尊司著の『発達障害と呼ばないで』です。急増する「発達障がい」ですが、その中には社会や生活環境、親子関係の変化を要因とする「愛着障がい」も多く含まれていると著者は言います。また、発達の偏りを「障がい」ではなく「特性」ととらえ、子どもの才能を伸ばすコツも具体的に示されています。

一本の木を、近くから見るのと遠くから見るのとでは、目に映る世界は違います。登って、寝ころんで...時にはいつもと違う場所から眺めて見ることも大切ですね。

(文責 大場)

